(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)公開番号
特開2025-82487
(P2025-82487A)
(43)公開日　令和7年5月29日(2025.5.29)

(51)国際特許分類		FI			テーマコード（参考）
E04H	*1/12 (2006.01)*	E04H	1/12	302Z	2E001
E04B	*2/74 (2006.01)*	E04H	1/12	A	
E04B	*1/70 (2006.01)*	E04B	2/74	561A	
E04B	*1/82 (2006.01)*	E04B	2/74	541M	
E04B	*1/94 (2006.01)*	E04B	2/74	541L	

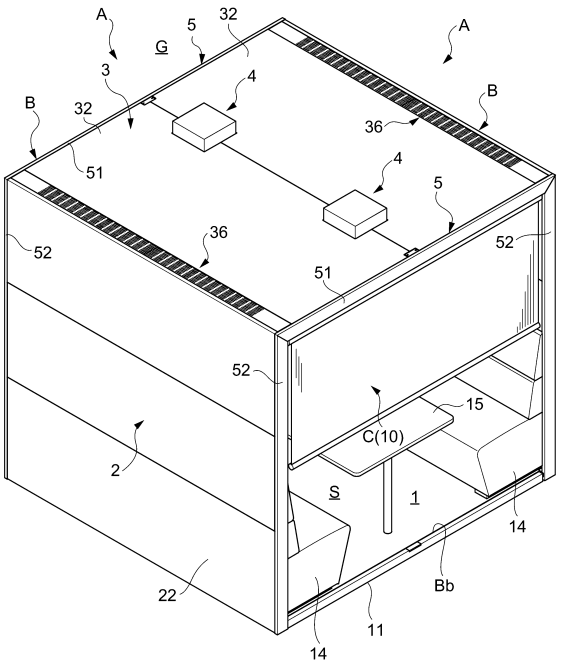
審査請求　未請求　請求項の数　9　ＯＬ　（全21頁）　最終頁に続く

(21)出願番号　特願2023-195844(P2023-195844)
(22)出願日　令和5年11月17日(2023.11.17)

(71)出願人　000001351
コクヨ株式会社
大阪府大阪市東成区大今里南６丁目１番１号
(71)出願人　000108627
タカノ株式会社
長野県上伊那郡宮田村１３７番地
(74)代理人　100085338
弁理士　赤澤 一博
(72)発明者　岩室 裕巳
大阪府大阪市東成区大今里南６丁目１番１号 コクヨ株式会社内
(72)発明者　松本 忍
大阪府大阪市東成区大今里南６丁目１番１号 コクヨ株式会社内
最終頁に続く

(54)【発明の名称】　ブース

(57)【要約】
【課題】特定のブースに対して用途に応じてタイプを切り替えることは難しいという従来の課題を解決する。
【解決手段】ブースＡを、既存の床上に載置される底盤１と、この底盤１の縁部に立設された複数枚の竪壁２と、これら竪壁２に支持されて底盤１との間に室内空間Ｓを形成する天井壁３とを備えた保形性を有するブース本体Ｂを具備してなるものにし、ブース本体Ｂにおける竪壁２の端縁間に室内空間Ｓを外部に開放する開口部Ｂｂが形成し、その開口部にＢｂに当該開口部Ｂｂの全部又は一部を塞ぐことができる閉止要素Ｃ（１０）を装脱可能に配し得るように構成した。
【選択図】図２４



【特許請求の範囲】
【請求項１】
既存の床上に載置される底盤と、この底盤の縁部に立設された複数枚の竪壁と、これら竪壁に支持されて前記底盤との間に室内空間を形成する天井壁とを備えた保形性を有するブース本体を具備してなり、
前記ブース本体における前記竪壁の端縁間には、前記室内空間を外部に開放する開口部が形成されており、前記開口部に当該開口部の全部又は一部を塞ぐことができる閉止要素を装脱可能に配し得るように構成されているブース。
【請求項２】
既存の床上に載置される平面視四辺形をなす底盤と、この底板の左右の縁部に立設された一対の竪壁と、これら竪壁に支持されて前記底盤との間に室内空間を形成する天井壁とを備えた保形性を有するブース本体を具備してなり、
前記竪壁の前端縁間及び後端縁間には、前記室内空間を外部に開放する開口部がそれぞれ形成されており、前記開口部に当該開口部の全部又は一部を塞ぐことができる閉止要素を装脱可能に配し得るように構成されているブース。
【請求項３】
前記閉止要素が、前記ブース本体の保形性強化に補助的に寄与し得るものである請求項１又は２記載のブース。
【請求項４】
前記閉止要素が、遮光性を有するパネル、遮音性を有するパネル、窓を有するパネル、及び扉を有するパネルからなる群より選ばれるパネルである請求項３記載のブース。
【請求項５】
前記閉止要素が、前記ブース本体の保形性強化に寄与し得ないものである請求項１又は２記載のブース。
【請求項６】
前記閉止要素が、すだれ、布製のカーテン、ロールカーテン、及びブラインドからなる群より選ばれる遮蔽部材である請求項５記載のブース。
【請求項７】
前記ブース本体における前記開口部の近傍に、前記室内空間内の換気を行うための通気口が設けられている請求項１又は２記載のブース。
【請求項８】
前記ブース本体の開口端面と前記通気口との間に、前記閉止要素を装着するための閉止要素装着領域が設けられている請求項７記載のブース。
【請求項９】
前記天井壁に照明器具が設けられており、前記照明器具を操作するためのリモコンが前記竪壁の内面所定箇所に着脱可能に保持されている請求項１記載のブース。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、オフィスや駅の構内等において好適に使用されるブースに関する。
【背景技術】
【０００２】
近時、働き方の多様化に伴い、オフィスの一角や駅の構内等に、周囲から隔離された空間を形成するためのブースが見受けられるようになっている。
【０００３】
ところで、従来のこの種ブースとしては、防音室ともいえるクローズドタイプのもの（特許文献１参照）や、前面のみが開放されたセミオープンタイプのもの（特許文献２参照）、或いは、前面と背面が開放されたオープンタイプのもの（特許文献３参照）などが存在する。
【０００４】

しかしながら、これら各タイプのものは、それぞれ専用設計がなされており、特定のブースに対して、そのタイプを変更して異なった用途に用いるようなことは想定されていない。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００５】

【特許文献１】意匠登録第１７２９０７５号公報

【特許文献２】意匠登録第１６５９７６７号公報

【特許文献３】意匠登録第１６３０９９９号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００６】

本発明は、前述したように特定のブースに対して用途に応じてタイプを切り替えることは難しいという従来の課題を解消することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

請求項１記載の発明に係るブースは、既存の床上に載置される底盤と、この底盤の縁部に立設された複数枚の竪壁と、これら竪壁に支持されて前記底盤との間に室内空間を形成する天井壁とを備えた保形性を有するブース本体を具備してなり、前記ブース本体における前記竪壁の端縁間には、前記室内空間を外部に開放する開口部が形成されており、前記開口部に当該開口部の全部又は一部を塞ぐことができる閉止要素を装脱可能に配し得るように構成されているものである。

【０００８】

この明細書において「保形性を有する」という文言は、別途補強材を付加したり既存の物体（建築構造物や既存の家具等）に連結するようなことなしにそのままの形態で使用し得るだけの剛性を有している」ことを意味している。しかして、この発明によれば、開口部に設けることが可能な閉止部材の補強機能の有無に関わらず、ブース本体自体が単独で保形性を有し、そのままの形態で使用することもできる点が従来のものとは異なっている。したがって、閉止要素の有無や種類を選択採用することによって、ブースの使い方を様々に演出することができるという効果を奏し得る。

【０００９】

請求項２記載の発明に係るブースは、既存の床上に載置される平面視四辺形をなす底盤と、この底板の左右の縁部に立設された一対の竪壁と、これら竪壁に支持されて前記底盤との間に室内空間を形成する天井壁とを備えた保形性を有するブース本体を具備してなり、前記竪壁の前端縁間及び後端縁間には、前記室内空間を外部に開放する開口部がそれぞれ形成されており、前記開口部に当該開口部の全部又は一部を塞ぐことができる閉止要素を装脱可能に配し得るように構成されているものである。

【００１０】

このブースは、閉止要素を両開口部に装着する態様、閉止要素を片方の開口部にだけ装着する態様、或いは閉止部材を装着せず両開口部を開放したままの態様のいずれかを採ることができる。

【００１１】

請求項３記載の発明に係るブースは、請求項１又は２記載の構成を前提とし、前記閉止要素が、前記ブース本体の保形性強化に補助的に寄与し得るものである点を特定したものである。

【００１２】

請求項４記載の発明に係るブースは、請求項３記載の構成を前提とし、前記閉止要素が、遮光性を有するパネル、遮音性を有するパネル、窓を有するパネル、及び扉を有するパネルからなる群より選ばれるものである点を明示したものである。

【００１３】

請求項５記載の発明に係るブースは、請求項１又は２記載の構成を前提とし、前記閉止要素が、前記ブース本体の保形性強化に寄与し得ないものである点を特定したものである。

【００１４】

請求項６記載の発明に係るブースは、請求項５記載の構成を前提とし、前記閉止要素が、すだれ、布製のカーテン、ロールカーテン、及びブラインドからなる群より選ばれるものである点を明示したものである。

【００１５】

請求項７記載の発明に係るブースは、請求項１又は２記載の構成を前提とし、 前記ブース本体における前記開口部の近傍に、前記室内空間内の換気を行うための通気口が設けられている点を特定したものである。かかる構成によれば、開口部に閉止要素を装着した場合に、その閉止要素の室内側に空気の澱みが発生するのを抑制することができるという効果を奏し得る。

【００１６】

請求項８記載の発明に係るブースは、請求項７記載の構成を前提とし、前記ブース本体の開口端面と前記通気口との間に、前記閉止要素を装着するための閉止要素装着領域が設けられている点を特定したものである。

【００１７】

請求項９記載の発明に係るブースは、請求項１記載の構成を前提とし、前記天井壁に照明器具が設けられており、前記照明器具を操作するためのリモコンが前記竪壁の内面所定箇所に着脱可能に保持されている点を特定したものである。

【発明の効果】

【００１８】

本発明によれば、保形性を有するブース本体の開口部に適宜な閉止要素を装脱可能に配することができるようにすることにより、前述した課題を解消することができるブースを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１９】

【図１】本発明の一実施形態を示す正面からの斜視図。
【図２】同実施形態における正面斜め上方からの斜視図。
【図３】同実施形態における正面斜め下方からの斜視図。
【図４】同実施形態の正面図。
【図５】同実施形態の側面図。
【図６】同実施形態の平面図。
【図７】同実施形態の底面図。
【図８】図４のα－α線に沿う断面図。
【図９】図８のＤ矢視部分に対応した拡大図。
【図１０】図４のβ－β線に沿う断面図。
【図１１】図１０におけるＥ矢視部分に対応した拡大図。
【図１２】同実施形態の通気口を模式的に示す説明図。
【図１３】図５のγ－γ線に沿う断面図。
【図１４】図１３におけるＫ矢視部分に対応した拡大図。
【図１５】同実施形態の骨組みを示す斜視図。
【図１６】同実施形態の自動消火装置取付部分を示す斜め下からの分解斜視図。
【図１７】同実施形態の組立て手順を説明するための説明図。
【図１８】図７におけるＬ矢視部分に対応した拡大斜視図。
【図１９】図７におけるＭ矢視部分に対応した斜め下からの拡大斜視図。
【図２０】本発明の他の実施形態を示す斜視図。
【図２１】同他の実施形態の背面部分を一部分解して示す斜視図。
【図２２】同他の実施形態における閉止要素の取付手順を説明するための説明図。

【図２３】同他の実施形態における閉止要素の取付手順を説明するための説明図。
【図２４】さらに他の実施形態の背面部分を示す斜視図。
【図２５】同他の実施形態における閉止要素の取付手順を説明するための説明図。
【発明を実施するための形態】
【００２０】
以下、本発明の実施形態を、図１～図２５を参照して説明する。
【００２１】
本発明に係るブースＡは、既存の床Ｆ上に載置される底盤１と、この底盤１の縁部に立設された複数枚の竪壁２と、これら竪壁２に支持されて底盤１との間に室内空間Ｓを形成する天井壁３とを備えた保形性を有するブース本体Ｂを具備している。そして、ブース本体Ｂにおける竪壁２の端縁２ａ、２ｂ間には、室内空間Ｓを外部空間Ｇに開放する開口部Ｂａ、Ｂｂが形成されており、開口部Ｂａ、Ｂｂに当該開口部Ｂａ、Ｂｂの全部又は一部を塞ぐことができる閉止要素Ｃ１、Ｃ２を装脱可能に配し得るように構成されている。
【００２２】
すなわち、このブースＡは、別途補強材を付加したり既存の物体に連結したりするようなことなしにそのままの形態で使用し得るだけの剛性を有したブース本体Ｂを備えたものであり、このブース本体Ｂの少なくとも１つの開口部Ｂａ、Ｂｂに、前述した閉止要素Ｃ１、Ｃ２を装脱可能に取り付けるための閉止要素取付部Ｑ、Ｗが設けられている。
【００２３】
ブース本体Ｂは、単独で保形性を有したものであるため、開口部Ｂａ、Ｂｂに装着する閉止要素Ｃは、ブース本体Ｂの保形性強化に寄与し得るものであっても、寄与し得ないものであってもよく、後述するように種々のものが採用可能である。
【００２４】
しかして、このブースＡは、ブース本体Ｂに閉止要素Ｃを一切装着しない態様でも使用可能であるため、第１の実施形態としてブース本体Ｂの前後両開口部Ｂａ、Ｂｂを出入口として開放した例を開示し、第２の実施形態としてブース本体Ｂの背面にだけ閉止要素Ｃたる背壁９を装脱可能に装着した例を開示し、第３の実施形態としてブース本体Ｂの背面にだけ閉止要素Ｃたるロール式のカーテン１０を装脱可能に装着した例を紹介する。
【００２５】
＜第１の実施形態＞（図１～図１９：前、後の開口部を開放したもの）
第１実施形態のブースＡは、ＯＡフロア等の既存の床Ｆ上に載置される平面視四辺形をなす底盤１と、この底盤１の左右の縁部に立設された一対の竪壁２と、これら竪壁２に支持されて前記底盤１との間に室内空間Ｓを形成する天井壁３とを備えた保形性を有する角柱状のブース本体Ｂを具備してなるもので、左右対をなす竪壁２の前縁２ａ間に前面側の開口部Ｂａが形成されているとともに、後縁２ｂ間に背面側の開口部Ｂｂが形成されており、それら両開口部Ｂａ，Ｂｂを室内空間Ｓへの人の出入りを許容する出入口としている。これら両開口部Ｂａ、Ｂｂには、後述する閉止要素Ｃを装脱可能に取り付けるための閉止要素取付部Ｑ、Ｗが設けられているが、第1の実施形態のブースＡは、閉止要素取付部Ｑ、Ｗに閉止要素Ｃを取り付けず、それらの閉止要素取付部Ｑ、Ｗを外装額縁５及び内装額縁６により隠蔽した状態で使用し得るようにしたものである。
【００２６】
このブースＡは、底盤１と天井壁３との間に室内空間Ｓを形成してなるものであって、室内空間Ｓへの人の出入りを許容する開口部Ｂａ、Ｂｂを有しており、その開口部Ｂａ、Ｂｂを出入口としている。そして、出入口（開口部Ｂａ、Ｂｂ）の近傍に、火災発生時に消火剤を噴射する自動消火装置４が設けられている。すなわち、このブースＡは、ブース本体Ｂが、前端及び後端にそれぞれ出入口として機能させることができる開口部Ｂａ、Ｂｂを有したものであり、天井壁３の前端寄りの部位及び後端寄りの部位にそれぞれ自動消火装置４が設けられている。
【００２７】
これら２台の自動消火装置４は、図１、図１０に示すように、天井壁３の中心位置Ｎに

設けられた中央の照明器具３７を前後から挟む位置に配されており、天井壁３の中心位置Ｎを通過して前後に延びる仮想直線４５に沿って、両自動消火装置４が配置されている。具体的には、自動消火装置４の消火装置本体４１は、図９、図１４、図１５、図１６等に示すように、消火剤を貯蔵する消火剤貯蔵容器４１１と、この消火剤貯蔵容器４１１の下面中央に突設され火災による熱を感知した場合に消火剤を下方に向けて噴射するノズル４１２とを備えたものであり、そのノズル４１２を仮想直線４５上に位置させて天井壁３に取り付けられている。

【００２８】

消火装置本体４１は、下方放出型の自動消火装置として市販されている通常のもの（例えば、日本ドライケミカル株式会社製のスプリンクラーエースＳＰＡ－３：商品名）であるため、図面では全体にハッチングを施して詳細な構造説明は省略している。消火剤貯蔵容器４１１の下面中心部に突設されたノズル４１２は、温度感知部が一体になったもので、温度の上昇を感知すると特殊ヒューズメタルが溶けて消火剤貯蔵容器４１１内の薬液がノズル４１２から下方に向けて放出されるようになっている。消火剤貯蔵容器４１１の下面には、ノズル４１２に隣接させて装置の状態を点検するための指示圧力計４１３が配設されており、この指示圧力計４１３も仮想直線４５上に位置させてある。すなわち、ノズル４１２と指示圧力計４１３とを前後方向に延びる仮想直線４５上に位置させて室内空間Ｓに臨ませてある。

【００２９】

このブースＡは、内側に室内空間Ｓを有し、その室内空間Ｓが天井壁３により外部空間Ｇと仕切られているものであって、図１４及び図１８に示すように、天井壁３が、後述するように、内部空間Ｓに臨む内装部材３３と外部空間Ｇに臨む外装部材３２との間に空洞３４を備えた二重壁構造をなしている。そして、内装部材３３側に室内空間Ｓと空洞３４とを連通させる内側の通気口３５を設けるとともに、外装部材３２側に空洞３４と外部空間Ｇとを連通させる外側の通気口３６を設けており、内側の通気口３５の空気流通孔３５２と、外側の通気口３６の空気流通孔３６２とは、図１２に示すように、平面視において相互に重ならないように配されている。なお、内側の通気口３５の空気流通孔３５２の面積の総和と、外側の通気口３６の空気流通孔３６２の面積の総和は、同じ値に設定されている。

【００３０】

この実施形態においては、天井壁３が、平面視四辺形をなすものであり、天井壁３における前、後の２辺に沿って内側の通気口３５を設けるとともに、左、右の２辺に沿って外側の通気口３６を設けている。

【００３１】

各通気口３５、３６は、空気及び光の通過を遮断する基板３５１、３６１と、この基板３５１、３６１に穿設され空気及び光の通過を許容する空気流通孔３５２、３６２とを備えたものである。具体的には、前、後の開口部Ｂａ、Ｂｂに沿った内側の通気口３５は、短冊状の平板からなる基板３５１と、この基板３５１の左、右両端部を除く部位に穿設された多数のスリット状をなす空気流通孔３５２とを備えたものであり、図９や図１８等に示すように、その基板３５１が梯子状の底板を有する横架フレーム材３５３の下面に添設されている。また、左、右の竪壁２の上端部に沿った外側の通気口３６は、図１８に示すように、後述する縦フレーム３１２の上板を兼ねる基板３６１と、この基板３６１の前、後両端部を除く部位に穿設された多数のスリット状をなす空気流通孔３６２とを備えたものである。

【００３２】

次いで、このブース本体Ｂの構成について（１）から（４）に沿って具体的に説明する。ブース本体Ｂは、前述したように、底盤１と、この底盤１の左右両側縁から立設した左右の竪壁２と、これら竪壁２に支持された天井壁３とを備えたものである。

（１）底盤１に関連する構成（図３、７、８、１５、１９）

底壁１は、図３、図７、図８等に示すように、フレーム１１と、このフレーム１１上に

載設された床板１２と、この床板１２上に敷設したカーペット１３とを備えたものである。そして、底壁１上の両側部には、図１、図４に示すように、椅子１４が載設されているとともに、左右方向中央にテーブル１５が設けられている。

【００３３】

フレーム１１は、金属製のもので、左右方向に延びる３本の横フレーム材１１１と、前後方向に延びる２本の縦フレーム材１１２と、前後方向に延びる第１、第２の縦補強材１１３、１１４とを備えている。

【００３４】

横フレーム材１１１は、底壁１の前縁部分と、前後方向中央部分と、後縁部分とにそれぞれ設けられたもので、左、右のパイプ素材ｐをアングル状の連結金具ｒを介して連結してなる。横フレーム材１１１の左、右両端部には前後一対のＬ型をなすパイプ受け金具ｔ、ｔがねじ止めされている。縦フレーム材１１２は、底壁１の左右の端に配されたもので、前後両端がパイプ受け金具ｔに溶接等により剛結されている。

【００３５】

第１の縦補強材１１３は、底盤１の左右方向中央部分に対をなして設けられた角パイプ材製のものであり、前、後両端は横フレーム材１１１にねじ止めされた連結金具ｒに剛結されている。これら２本の補強部材１１３の前、後両端部にはキャスタ受けｕが架設されているとともに、開口部Ｂａ、Ｂｂ付近の端部上面には、テーブル１５を支持する家具取付板ｖが剛結されている。

【００３６】

第２の縦補強材１１４は、底盤１の側縁近傍部分にそれぞれ設けられた角パイプ材製のものであり、前、後両端は横フレーム材１１１に設けられた連結金具ｒに剛結されている。第２の縦補強材１１４と縦フレーム材１１２との間には、キャスタ受けｕが架設されているとともに、ブース前半側の縦フレーム材１１２と縦補強材１１４との間には、図３、図７、及び図１９等に示すように、外気導入口１７が形成されており、この外気導入口１７には外気ＯＡを強制的に室内空間Ｓ内に導入するための複数台の換気扇１６が配設されている。換気扇１６は、図３，１７等では想像線で概略的に示してある。また、図７、図１３及び図１９等においては、換気扇１６の図示を省略してある。なお、外気導入口１７に対応する床板１２及びカーペット１３の部位には、切欠き孔１２ａ及び切欠き孔１３ａが形成されている。

【００３７】

床板１２は、パネル状のものであり、フレーム１１上に載置した状態で、フレーム１の横フレーム材１１１に図示しないねじ等の止着具により室内空間Ｓ側から止着されている。床板１２の上面にはカーペット１３が敷設されており、このカーペット１３上に椅子１４が載置されている。そして、換気扇１６により外気導入口１７から導入される外気ＯＡは、椅子１４内に形成された図示しない椅子内空間を経由して当該椅子１４の前端下部から室内空間Ｓ内に導入されるようになっている。外気ＯＡを椅子内空間を通してブースＡの室内空間Ｓに導入することは通常の技術であるため説明を省略する。図１３では、椅子１４の内部構造を省略して示している。

【００３８】

この底盤１と既存の床Ｆとの間には、床下空間１８が形成されている。

（２）竪壁２に関連する構成（図1－８、図１３、図１５、図１７－１９）

縦壁２は、金属製のフレーム２１と、このフレーム２１の外面側に止着されたパネル状をなす外装部材２２と、フレーム２１の内面側に止着されたパネル状をなす内装部材２５とを備えたものである。

【００３９】

フレーム２１は、図１５等に示すように、偏平なパイプ素材により作られた支柱２１１を備えてなる金属製のものであり、各支柱２１１は、底壁１の横フレーム材１１１に対応させて３本設けられている。各支柱２１１の下端部は、底盤１のフレーム１１に固設されたパイプ受け金具ｔ、tの起立部間に挿入されてねじ止めされている。フレーム２１の上

端部は、天井壁３のフレーム３１に固設された逆Ｌ字型をなすパイプ受け金具ｔ、ｔの垂下部間に挿入され、ねじ止めされている。フレーム２１の各支柱２１１には、外面側に外装部材２２を止着するためのねじ挿通孔ｚが貫設されている。

【００４０】

外装部材２２は、図２等に示すように、下段、中段、上段のピースに分断されたパネル状のものであり、図１１等に示すように、外装部材２２の各支柱２１１に対応する部位に複数のねじ孔ｙが形成されている。なお、外装部材２２は、中空体状をなす板金性のものであっても、中身の詰まった木材製のものであってもよい。板金製のものでは、内面側の板金素材にねじ孔ｙを形成しておけばよく、木材製のものでは、ねじ孔ｙを有するナットを内面側に埋設しておけばよい。

【００４１】

内装部材２５は、図１３等に示すように、パネル状をなす上部の内装部材２５Ａと、椅子１４を兼ねる下部の内装部材２５Ｂとからなるもので、室内空間Ｓ側から止着具２６を挿通させるための図示しないねじ挿通孔を有している。なお、この実施形態では、上部の内装部材２５Ａは、図１に示すように、室内空間Ｓ側にリモコン装着領域２８が設定されており、このリモコン設定領域２８にリモコンユニット２７を磁力により着脱可能に保持し得るようにしてある。リモコンユニット２７は、天井壁３に装着された照明装置３７、３８の点灯切替えや照度調整等を行うためのものである。

【００４２】

ここで外装部材２２及び内装部材２５の取付手順を説明する。図１７等に示すように、まず、下段の外装部材２２を支柱２１１の外面に添接させ、図１１に示すように、室内空間Ｓ側から支柱２１１のねじ挿通孔ｚに挿通させた止着具２３をその外装部材２２のねじ孔に螺着する。この螺着操作を複数個所行うことにより、当該外装部材２２を支柱２１１の外面側に固定することができる。この操作を中段の外装部材２２、及び上段の外装部材２２に対しても順次行うことによって、全ての外装部材２２を竪壁２のフレーム２１の外面側に固定することができる。この場合、止着具２３を支柱２１１を貫通させて外装部材２２のねじ孔ｙに定着するまでの過程で、外装部材２２を正規の位置に仮保持させておくための仮保持機構を設けておいてもよい。仮保持機構としては、支柱２１１及び外装部材２２のいずれか一方に設けた達磨孔と、他方に設けられその達磨孔に係合する頭部付きのピンとからなるもの等、適宜な機構を使用することができる。

【００４３】

外装部材２２を支柱２１１の外面側に止着した後、図１７に示すように、これら外装部材２２の内面に、複数の中継金具２４を室内空間Ｓ側から止着し、それらの中継金具２４に対して内装部材２５（２５Ａ）を室内空間Ｓ側から止着具２６を用いてねじ止めする。各中継金具２４は、図１１、１７に示すように、室内空間Ｓ側にねじ孔２４ａを有しており、内装部材２５を貫通させた止着具２６をねじ孔２４ａに螺着することによって、内装部材２５を中継金具２４を介して支柱２１１の内面側に固定することができる。なお、外装部材２２と中継部材２４との間にも、前述した仮保持機構を設けておくと作業が効率的なものになる。この実施形態では、図１７に示すように、中継部材２４の上端部外面側に達磨孔２４ｂを設け、外装部材２２の内面に図示しない頭部付きピンを突設してなる仮保持機構を設けている。なお、中継部材２４は、外装部材２２の内面側に内装部材２５を止着するための台座としての役割を担っているが、上、下に隣接する複数の外装部材２２が面一に並ぶように姿勢矯正を行う役割をも有している。以上の手順は、パネル状をなす上部の内装部材２５Ａのみならず、下部の内装部材２５Ｂを兼ねる椅子１４についても上記に準じた手順で実施することができる。

【００４４】

なお、この竪壁２の外装部材２２と内装部材２５（２５Ａ、２５Ｂ）との間には、上下に連続した空洞２９が形成されている。この空洞２９は、下端が前述した床下空間１８に連通し、上端が後述する天井壁３の空洞３４に連通している。

（３）天井壁３に関連する構成（図１－１８）

天井壁３は、図１５、図１７、及び図１８等に示すように、竪壁２のフレーム２１に支持されたフレーム３１と、このフレーム３１の外面側に配された外装部材３２と、フレーム３１の内面側に配された内装部材３３とを備えてなる。

【００４５】

フレーム３１は、金属製のもので、竪壁２の３本の支柱２１１にパイプ受け金具ｔ、ｔを介してそれぞれ接続された横フレーム材３１１と、これら横フレーム３１１の端部同士を連結する左、右の縦フレーム３１２と、横フレーム３１１の中央部同士を連結する左、右対をなす縦補強材３１３とを備えている。

【００４６】

横フレーム材３１１は、天井壁３の前縁部分と、前後方向中央部分と、後縁部分とにそれぞれ設けられたもので、左、右のパイプ素材ｐをアングル状の連結金具ｒを介して連結してなる。横フレーム材３１１の左、右両端部はパイプ受け金具ｔ、ｔ間に挿入されねじ止めされている。縦フレーム材３１２は、天板壁３の左右の端に配されたもので、横フレーム材３１１の端部にパイプ受け金具ｔ、ｔを介してねじ止めされている。

【００４７】

縦補強材３１３は、天井壁３の左右方向中央部分に左、右に対をなして設けられた角パイプ材製のものであり、前、後両端は横フレーム材３１１にねじ止めされた連結金具ｒに剛結されている。左、右対をなす縦補強材３１３は、前の横フレーム材３１１と中間の横フレーム材３１１との間、及び、中間の横フレーム材３１１と後の横フレーム材３１１との間にそれぞれ架設されており、それら各縦補強材３１３に、前述した自動消火装置４が取付けられている。

【００４８】

自動消火装置４の設置構造は図１４、図１５、図１６に示す通りである。すなわち、左、右対をなす縦補強材３１３の上面側にカバー４３を載置するとともに、消火装置本体４１を受皿４２に載置し、その受皿４２を縦補強材３１３の下面側に止着することによって消火剤貯蔵容器４１１がカバー４３内に収また状態で設置されるようになっている。カバー４３は、下方に開放された箱状のもので、開放部の左右両側縁に縦補強材３１３上に載置される鍔部４３ａを有しており、図１５に示すように、その鍔部４３ａにナット４３ｂが固設されている。受皿４２は、消火剤貯蔵容器４１１の直径よりも若干小さな直径を有した孔４２ａを有したもので、消火装置本体４１を載置することによって、消火剤貯蔵容器４１１の下端部と、ノズル４１２と、指示圧力計４１３が下方に露出するようになっている。そして、受皿４２の鍔部４２ｂに穿設されたねじ挿通孔ｚと縦補強材３１３のねじ挿通孔ｚに止着具４４を室内空間Ｓ側から挿通させ、その止着具４４をカバー４３のナット４３ｂに螺着することによって消火装置本体４１の装着が完了する。なお、受皿４２の装着は、カバー４３に固着した図示しないボルトを縦補強材３１３と受皿４２の鍔部４２ｂに貫通させ、そのボルトの貫通端部に図示しないナットを定着するようにしてもよい。

【００４９】

外装部材３２は、左、右のピースに分断されたパネル状のものであり、外装部材３２の各横フレーム材３１１に対応する部位に図示しないねじ孔が形成されている。なお、外装部材３２は、中空体状をなす板金性のものであっても、中身の詰まった木材製のものであってもよい。板金製のものでは、内面側の板金素材にねじ孔を形成しておけばよく、木材製のものでは、ねじ孔を有するナットを内面側に埋設しておけばよい。

【００５０】

内装部材３３は、図１０に示すように、中央、及び、左、右のピースに分断されたパネル状のものであり、中央の内装部材３３Ａは、中心位置Ｎ付近に中央の照明器具３７が取付けられているとともに、四隅近傍に周辺の照明器具３８が設けられている。

【００５１】

外装部材３２及び内装部材３３の取付手順は次の通りである。外装部材３２に関しては、竪壁２の外装部材２２の取付手順に準じたものであり、室内空間Ｓ側から横フレーム材３１１のねじ挿通孔ｚにボルト等の図示しない止着具を室内空間Ｓ側から挿通させ、その

止着具を外装部材２２の図示しないねじ孔に螺着することによって、外装部材３２をフレーム３１の外側に止着することができる。外装部材３２の左右の端部３２ａは、図１８に示すように、外側の通気口３６が形成されている竪フレーム材３１２の鍔部３１２ａによって支持されているため、さらに、図示しない止着具を室内空間Ｓ側から鍔部３１２ａを貫通させて外装部材３２に螺着してもよい。これらの操作を左、右の外装部材３２に対して順次行うことによって、外装部材３２を室内空間Ｓ側からの作業によって天井壁３のフレーム３１の外面側に固定することができる。

【００５２】

内装部材３３も、竪壁２の内装部材２５に準じた手順で室内空間Ｓ側から取り付けることができるものである。なお、内装部材３３の前後の端部３３ａは、内側の通気口３５が設けられている横架フレーム材３５３を介して天井壁３の横フレーム材３１１に支持させることができる。

（４）開口部Ｂａ、Ｂｂ付近の構成について（図１－２５）

以上説明した第１の実施形態のブース本体Ｂと、後述する第２、第３の実施形態のブース本体Ｂとは、同じものであるため、ここでは全ての図面を流用して開口部Ｂａ、Ｂｂ付近の構成について説明を行う。

【００５３】

以上説明したブース本体Ｂの前、後の開口部Ｂａ、Ｂｂには、それぞれ２種類の閉止要素取付部Ｑ、Ｗが設けられている。第１の閉止要素取付部Ｑは、後述する閉止要素Ｃたる背板９等を取り付けるためのものであり、第２の閉止要素取付部Ｗは、後述する閉止要素Ｃたるカーテン１０等を取り付けるためのものである。

【００５４】

第１の閉止要素取付部Ｑは、図２２に示すように、底盤１のフレーム１１の左右方向中央部、及び左右両端部近傍部に設けられているとともに、天井壁３のフレーム３１の左右方向中央部、及び左右両端部近傍部に設けられている。詳細は後述する第２の実施形態の説明に譲るが、図面では、底盤１のフレーム１１の中央に設けられている閉止要素取付部Ｑには「Ｑａ」、底盤１のフレーム１１の左右両端部に設けられている閉止要素取付部Ｑには「Ｑｂ」、天井壁３のフレーム３１の中央に設けられている閉止要素取付部Ｑには「Ｑｃ」、天井壁３のフレーム３１の左右両端部に設けられている閉止要素取付部Ｑには「Ｑｄ」という符号を付すことがある。

【００５５】

第１の実施形態のブースＡでは、これらの閉止要素取付部Ｑは使用しないため、ブース本体Ｂの前、後両端面に外装額縁５を着脱可能に蓋着している。外装額縁５は、天井壁３の前、後両端面を隠蔽するセンター部材５１と、竪壁２の前、後両端面を隠蔽するサイド部材５２とを備えている。センター部材５１は、内面に予め止着した取付金具５３（図１８参照）を室内空間Ｓ側から天井壁３の外装部材３２等にねじ止めすることによって着脱可能に装着されている。サイド部材５２は、内面に予め止着した取付金具５３を室内空間Ｓ側から竪壁２の外装部材２２等にねじ止めすることによって着脱可能に装着されている。

【００５６】

第２の閉止要素取付部Ｗは、ブース本体Ｂにおける開口部Ｂａ、Ｂｂの内面側に形成された凹溝６１内に設けられたものである。すなわち、ブース本体Ｂの開口端面と内側の通気口３５との間には、閉止要素装着領域６２が設定されており、この閉止要素装着領域６２に凹溝６１が形成されている。凹溝６１内には、天井壁３の横フレーム材３１１が露出しており、この横フレーム材３１１にねじ孔ｙを設けることによって閉止要素取付部Ｗが形成されている。

【００５７】

第１の実施形態のブースＡでは、この閉止要素取付部Ｗを使用しないため、凹溝６１に直線パイプ状の内装額縁６を着脱可能に装着して閉止要素取付部Ｗを隠蔽している。

＜第２の実施形態＞（図２０～２３）

この実施形態のブースＡは、ブース本体Ｂにおける背面側の開口部Ｂｂに閉止要素Ｃである背壁９を装脱可能に取り付けたものである。

【００５８】

ブース本体Ｂは、以上説明した第１の実施形態のものと同様のものであり、同一又は対応する部分には同一の符号を付して説明を省略する。なお、この実施形態では、背壁９を取り付けるため、背面側の外装額縁５は取り外してある。

【００５９】

閉止要素Ｃである背壁９は、複数本の縦フレーム材９１Ａ、９１Ｂと、これら竪フレーム材９１Ａ、９１Ｂの外面側に止着した外装部材９２と、竪フレーム材９１Ａ、９１Ｂの内面側に添設された内装部材９３とを備えてなる。

【００６０】

中央の竪フレーム材９１Ａは、角柱パイプ素材製のもので、下端に設けた下ブラケット９１Ａａを底盤１の閉止要素取付部Ｑａにねじ止めするとともに、上端に設けた上ブラケット９１Ａｃを天井壁３の閉止要素取付部Ｑｃにねじ止めして固定している。

【００６１】

左、右の竪フレーム材９１Ｂは、角柱パイプ素材製のもので、下端に設けた下ブラケット９１Ｂｂを底盤１の閉止要素取付部Ｑｂにねじ止めするとともに、上端に設けた上ブラケット９１Ｂｄを天井壁３の閉止要素取付部Ｑｄにねじ止めして固定している。

【００６２】

外装部材９２は、上下３段に分断されたもので、下から順に積み上げてフレーム２１に止着する。その止着手順は竪壁２の外装部材２２に準じて行えばよい。すなわち、外装部材９２は、室内空間Ｓ側から竪フレーム材９１Ａ、９１Ｂに貫通させた図示しない止着具を外装部材９２に設けたねじ孔に螺着することにより固定される。

【００６３】

内装部材９３も、上下３段に分断されており、例えば、竪壁２の内装部材２５に準じた構造及び手順により竪フレーム材９１Ａ、９１Ｂの室内空間Ｓ側に装着することができる。

【００６４】

この第２の実施形態の閉止要素Ｃである背壁９は、竪フレーム材９１Ａ，９１Ｂによって底盤１と天井壁３の後端部間を連結することになるため、ブース本体Ｂの保形性強化にも寄与し得るものとなる。

＜第３の実施形態＞（図２４、２５）

この実施形態のブースＡは、ブース本体Ｂの背面側の開口部Ｂｂに閉止要素Ｃであるロール式のカーテン１０を装脱可能に取り付けたものである。

【００６５】

ブース本体Ｂは、以上説明した第１の実施形態のものと同様のものであり、同一又は対応する部分には同一の符号を付して説明を省略する。なお、この実施形態では、カーテン１０を取り付けるため、背面側の内装額縁６を取り外してある。

【００６６】

カーテン１０は、例えば、図示しないハウジング内に巻装状態のカーテン本体を収容してなる通常のものであり、カーテン本体の下端を下方に牽引することによってそのカーテン本体を適宜下方に繰り出すことがきるようになっている。そして、そのハウジングが、内装額縁６を取り外すことによって解放される凹溝６１内に収容された状態で第２の閉止要素取付部Ｗにねじ止めされている。

【００６７】

この第３の実施形態の閉止要素Ｃであるカーテン１０は、天井壁３の横フレーム材３１１に懸吊支持されているだけのものであるため、ブース本体Ｂの保形性強化に寄与し得るものではないが、外装額縁５を取り外すことなしに装脱することができるため、使用者段階においてもブースＡの使い方を様々に変化させることがきるものである。

【００６８】

以上説明したように、前述した第１、第２、第３の実施形態のブースＡは、既存の床Ｆ上に載置される底盤１と、この底盤１の縁部に立設された複数枚の竪壁２と、これら竪壁２に支持されて底盤１との間に室内空間Ｓを形成する天井壁３とを備え、正面及び背面に開口部Ｂａ、Ｂｂを有する保形性を備えたブース本体Ｂを有しているため、既存の床面Ｆや建築壁面等に改造を加えることなしに一定の囲われ感を醸し出す室内空間Ｓを形成することができる。しかも、その開口部Ｂａ、Ｂｂには、当該開口部Ｂａ、Ｂｂの全部又は一部を塞ぐことができる閉止要素Ｃを装脱可能に配し得るようにしているため、用途に応じて種々のタイプのブースＡを容易に実現することができる。

【００６９】

特に、ブースＡのブース本体Ｂは、それ自体で保形性を有している、すなわち、別途補強材を付加したり既存の物体に連結するようなことなしにそのままの形態で使用し得るだけの剛性を有している。そのため、閉止要素Ｃは、ブース本体Ｂの保形性強化に寄与し得るものであるか否かに拘わらず自由に選択使用することが可能であり、開口部Ｂａ、Ｂｂに全く閉止要素Ｃを配設しない形態も採用することができる。そのため、タイプ変更の自由度が高く、広い用途に用いることが出来るものである。

【００７０】

ちなみに、第１の実施形態のブースＡは、開口部Ｂａ、Ｂｂに全く閉止要素Ｃを配設しない形態の一例を示したものであり、第２の実施形態のブースＡは、開口部Ｂｂに、ブース本体Ｂの保形性強化に補助的に寄与し得る閉止要素Ｃの一つである背壁９を装着したものであり、第３の実施形態のブースＡは、開口部Ｂｂに、ブース本体Ｂの保形性強化に寄与しない閉止要素Ｃの一つであるカーテン１０を開閉可能に装着したものである。

【００７１】

また、ブース本体Ｂにおける開口部Ｂａ、Ｂｂの近傍には、室内空間Ｓ内の換気を行うための通気口３５が設けられているため、いずれの開口部Ｂａ、Ｂｂに閉止要素Ｃを装着した場合でも、その閉止要素Ｃの内側付近に空気の澱みが発生するのを有効に抑制することができる。

【００７２】

さらに、ブース本体Ｂの開口端面と通気口３５との間には、閉止要素Ｃを装着するための閉止要素装着領域６２が設けられているため、閉止要素Ｃと通気口３５の相対位置を適正な関係に設定することができる。

【００７３】

しかして、以上説明した実施形態では、ブース本体Ｂの底盤１のフレーム１１及び天井壁３のフレーム３１に、背壁９等の閉止要素Ｃを取付けるための第1の閉止要素取付部Ｑが設けられているとともに、前述した天井壁３のフレーム３１にカーテン１０等の閉止要素Ｃを取付けるための第２の閉止要素取付部Ｗが設けられている。そのため、任意の閉止要素取付部Ｑ、Ｗを適宜選択して必要な閉止要素Ｃを装着することができ、ブースＡを種々のタイプに変身させることが容易にできる。

【００７４】

前述した実施形態では、第２の要素取付部Ｗが閉止要素装着領域６２に配されている。そして、閉止要素Ｃを取付けない開口部Ｂａ、Ｂｂにおいては、第1の閉止要素取付部Ｑは外装額縁５を装着することにより隠蔽されており、第２の閉止要素取付部Ｗは、閉止要素装着領域６２に内装額縁６を装着することにより隠されている。そのため、閉止要素Ｃを装着しない開口部Ｂａ、Ｂｂの美観も損なわれることはない。

【００７５】

また、前記実施形態では、天井壁３に照明器具３７、３８が設けられており、それらの照明器具３７、３８を操作するためのリモコン２７が竪壁２の内面所定箇所に設けられたリモコン装着領域２８に着脱可能に保持されている。リモコン装着領域２８は、例えば、主に出入口となる開口部Ｂａ、又はＢｂの近傍箇所に設けられている。そのため、室内空間Ｓに出入りする人がそのリモコン２７を容易に手にすることができ、照明器具３７、３８の点滅や明るさ調整等を適宜行うことができる。そのため、人感センサーシステム等を

設けなくても、室内空間Ｓを便利に使用することができる。照明器具３７やリモコン装着領域２８については、一部の図面にのみに記載し他の図面では図示を省略している。

【００７６】

なお、本発明は、以上説明した実施形態のものに限定されないのは勿論であり、次のような形態も含まれる。

【００７７】

例えば、請求項１に係る発明においては、底盤が平面視四辺形のものに限られず、平面視三角形や五角形以上の角をもつ多角形等であってもよい。あるいは、底盤が平面視円形のもの等も含まれる。

【００７８】

したがって、竪壁の枚数や形態も図示例のものに限られず、開口部の数も２つに限定されるものではない。そして、竪壁の材質も使用目的に応じていろいろと充実させることができるものであり、例えば、竪壁の内装部材として吸音効果を発揮し得る素材を用いるなど、種々変形が可能である。天板壁の形態や材質も図示例のものに限られず、種々変形が可能である。

【００７９】

なおまた、以上の実施形態では、ブース本体Ｂが、底盤１にキャスタ１１６とアジャスタ１１７とを備えた可搬式のである場合について説明したが、必ずしもこのような構成に限られるものではなく、例えば、ブレーキ付きキャスタのみを設けたものや、アジャスタのみを備えたものなど、種々変形が可能である。

【００８０】

さらに、閉止要素も、第２の実施形態に示す背壁や第３の実施形態に示すカーテンに限定されるものではなく、種々のものが採用可能である。例えば、保形性強化に補助的に寄与し得るものとしては、遮光性を有するパネル、遮音性を有するパネル、窓を有するパネル、又は扉を有するパネル等を挙げることができる。ここでいうパネルとは、二重壁構造をなす壁状のもの等も含まれるものである。また、ブース本体の保形性強化に寄与し得ないものとしては、すだれ、布製のカーテン、各種のロールカーテン、又はブラインド等を挙げることができる。閉止要素は、正面側の開口部にも設けることができる。

【００８１】

また、前記実施形態では、天井壁に下方放出型の自動消火装置を設けた場合について説明したが、本発明のブースには、かかる自動消火装置を設けないものも含まれる。

【００８２】

その他、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、種々変更が可能である。

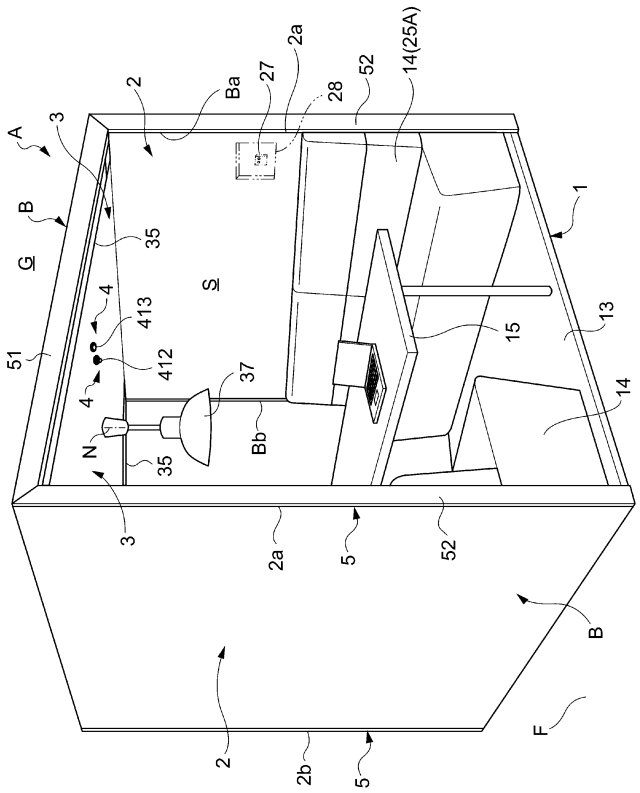
【符号の説明】

【００８３】

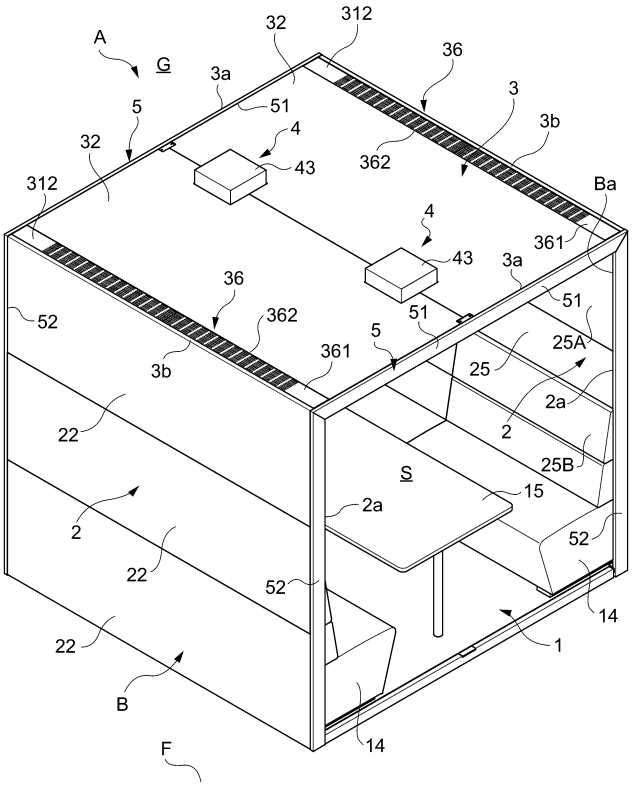
Ａ…ブース
Ｂ…ブース本体
Ｂａ…開口部
Ｂｂ…開口部
Ｃ…閉止要素
Ｆ…既存の床面
Ｇ…外部空間
Ｓ…室内空間
１…底盤
２…竪壁
３…天井壁
４…自動消火装置
９…閉止要素Ｃたる背壁
１０…閉止要素Ｃたるカーテン

【図面】

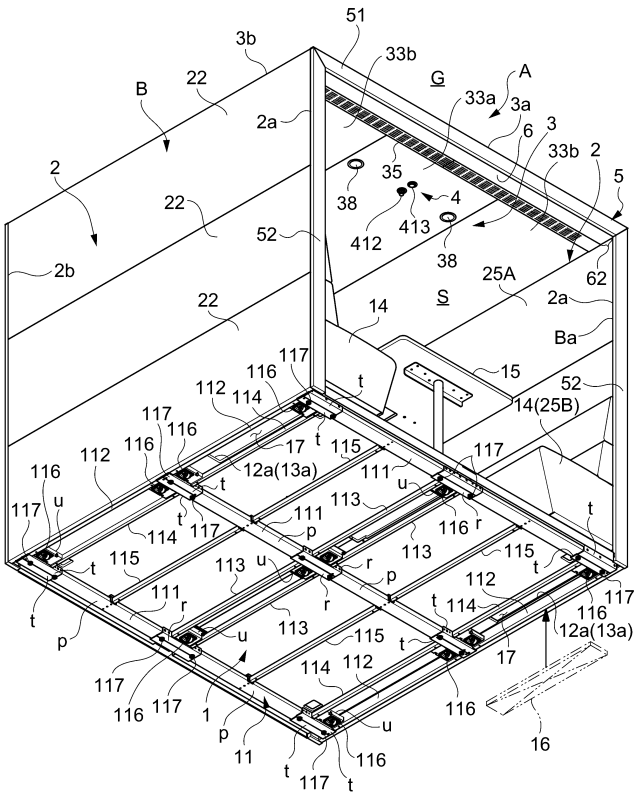
【図１】


A
B
G
S
1
2
2a
2b
3
4
5
13
14
14(25A)
15
27
28
35
37
51
52
Ba
Bb
N
413
412

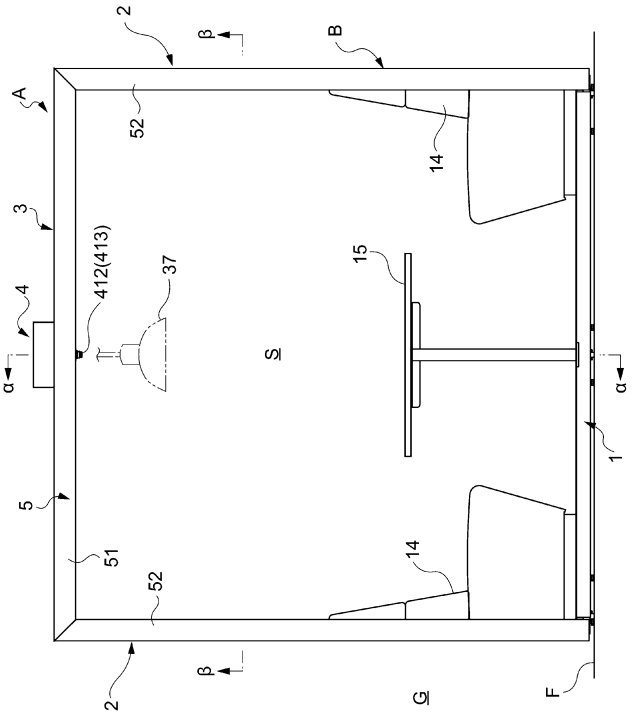
【図２】


A
G
S
1
2
2a
3
3a
3b
4
5
14
15
22
25
25A
25B
32
36
43
51
52
312
361
362
Ba

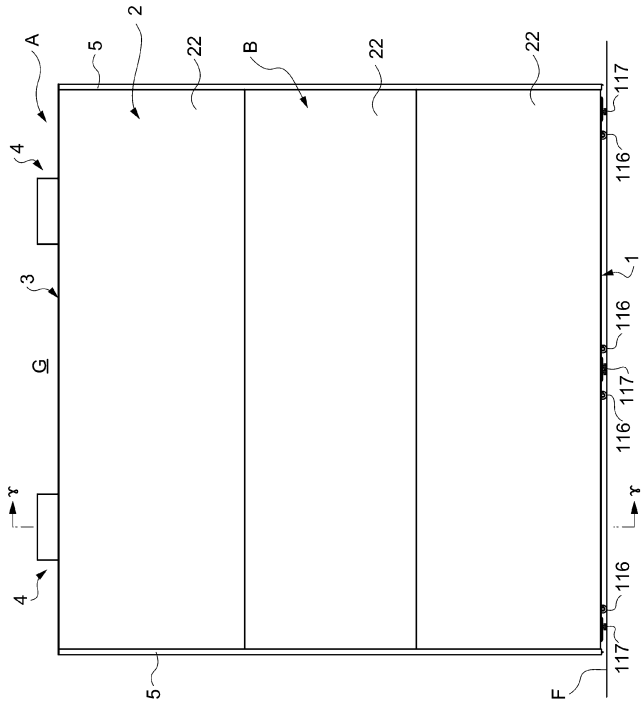
【図３】


A
B
G
S
1
2
2a
2b
3
3a
3b
4
5
6
11
12a(13a)
14
14(25B)
15
16
17
22
25A
33a
33b
35
38
51
52
62
111
112
113
114
115
116
117
412
413

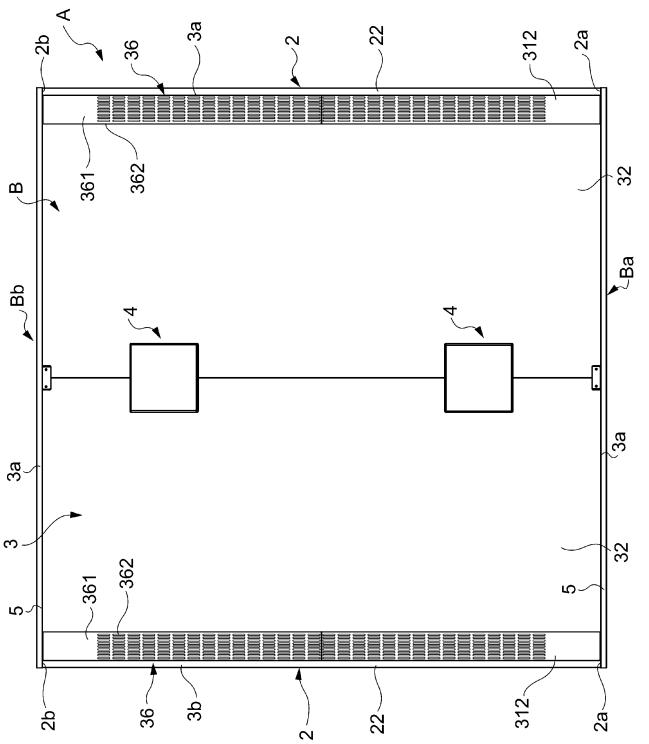
【図４】


A
B
G
S
1
2
3
4
5
14
15
37
51
52
412(413)
α
β
F

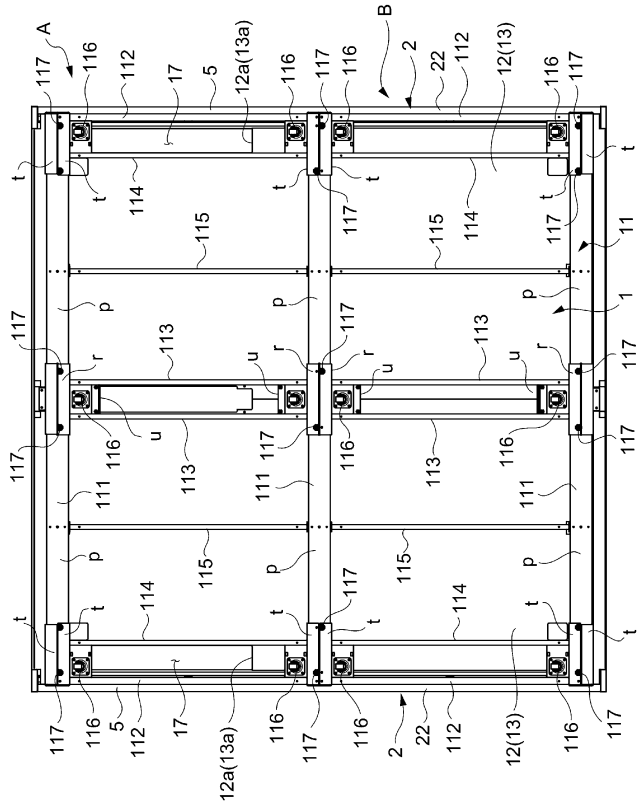
【図５】



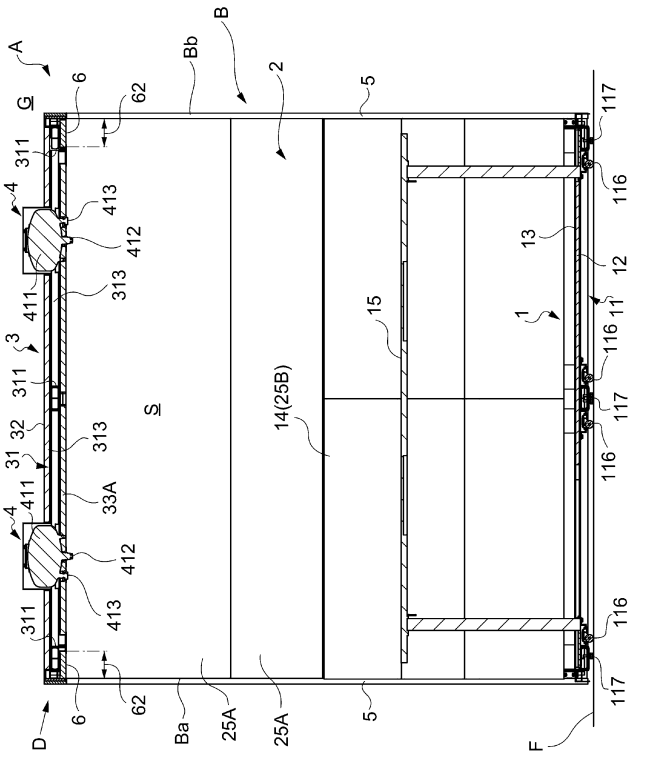
【図６】



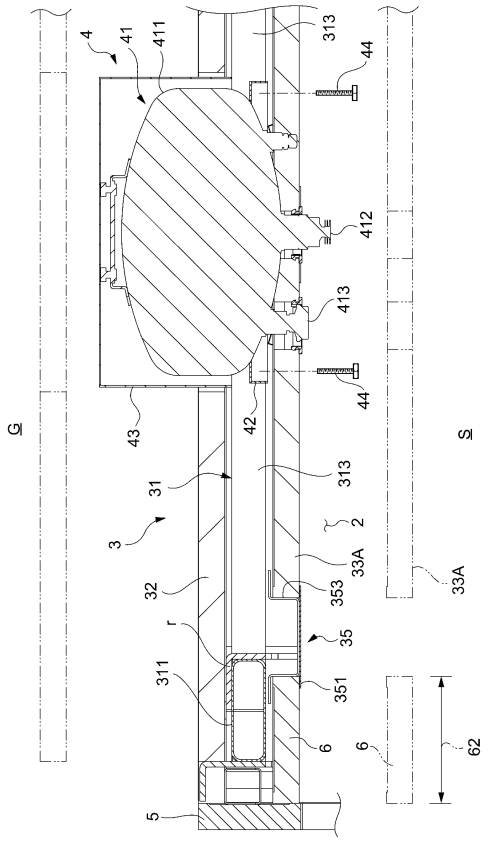
【図７】



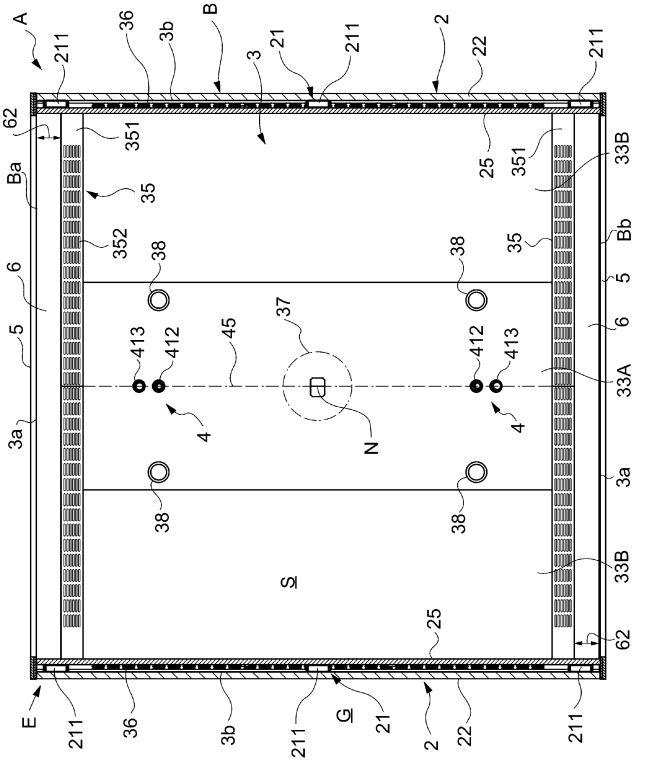
【図８】



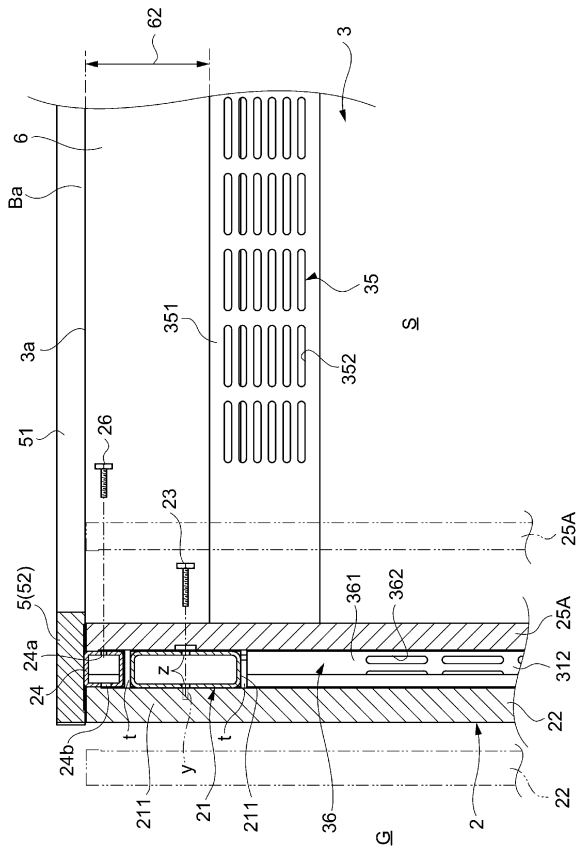
【図９】



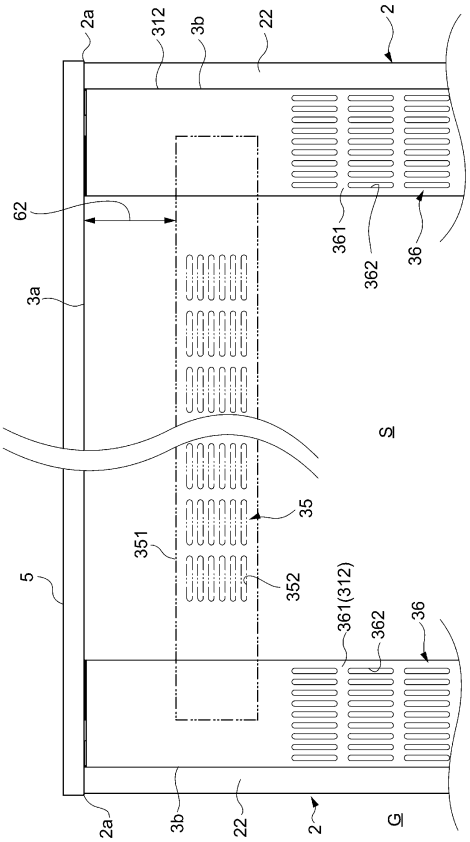
【図１０】



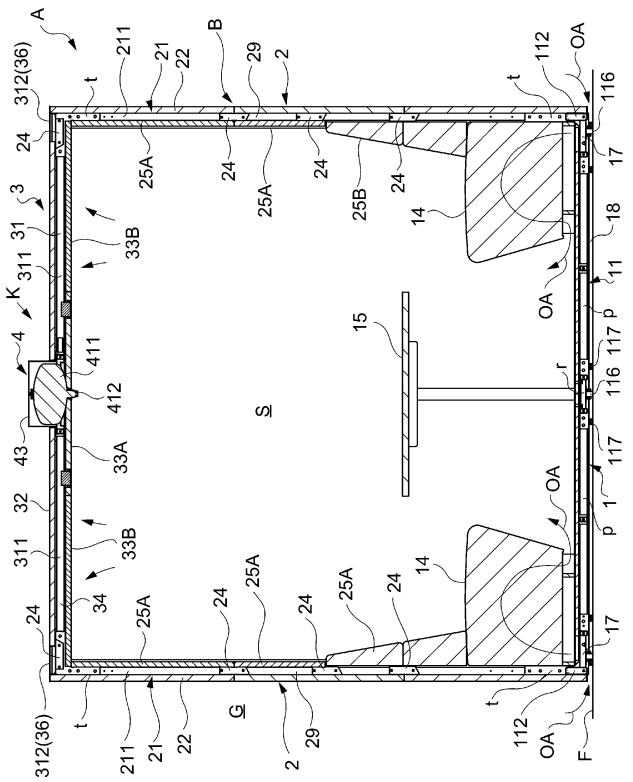
【図１１】



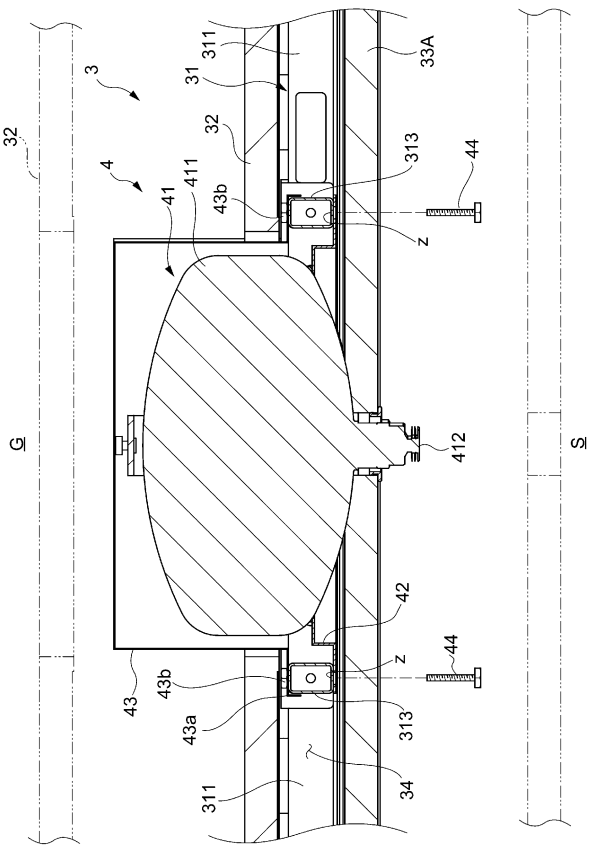
【図１２】



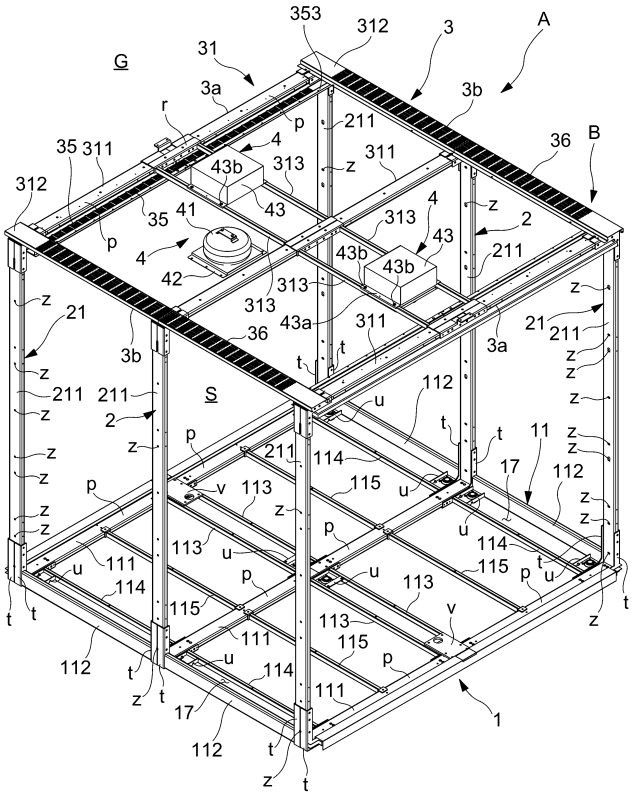
【図１３】



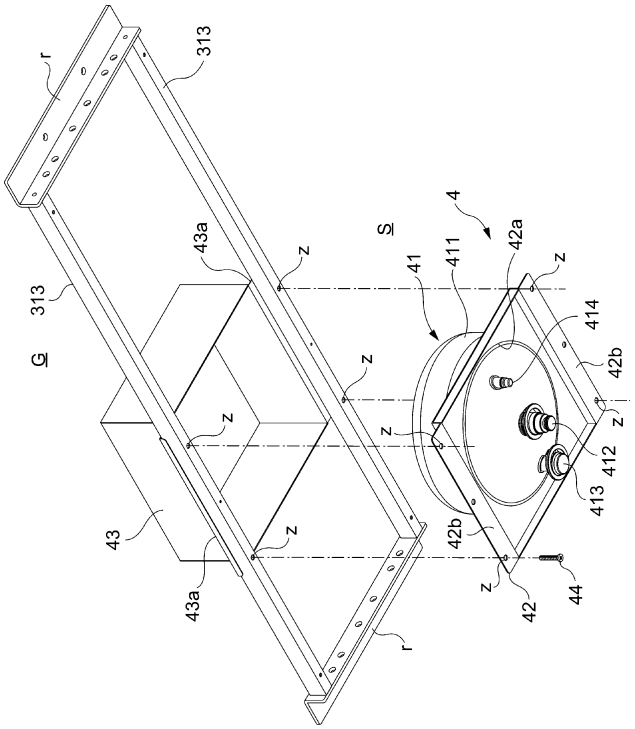
【図１４】



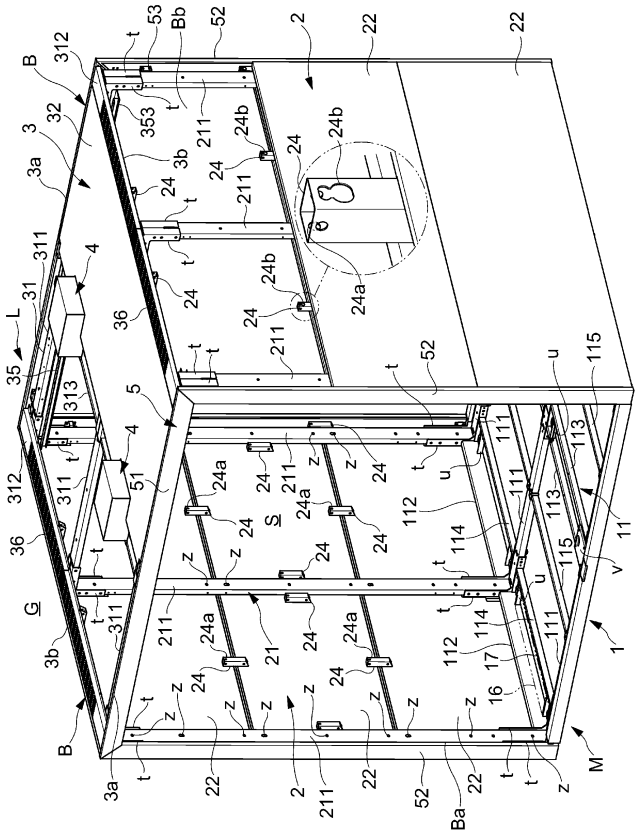
【図１５】



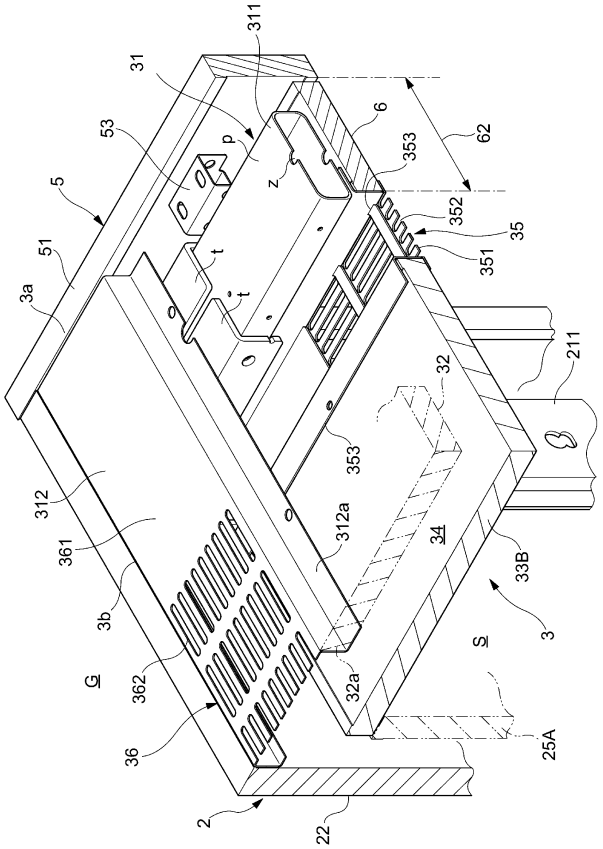
【図１６】



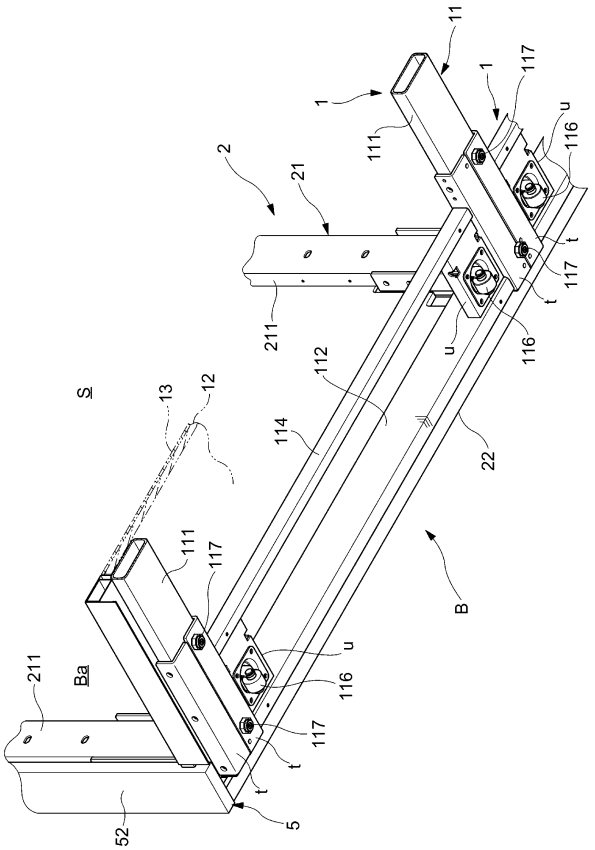
【図１７】



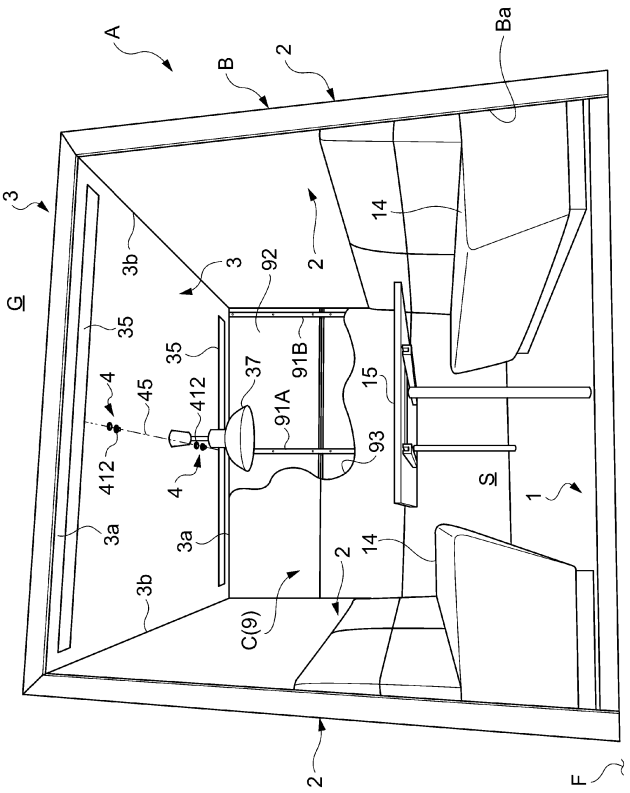
【図１８】



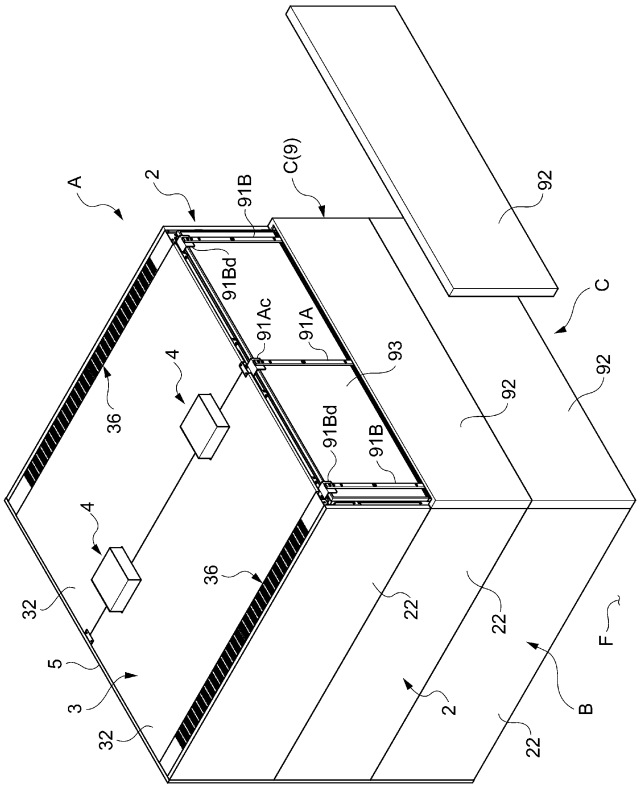
【図１９】



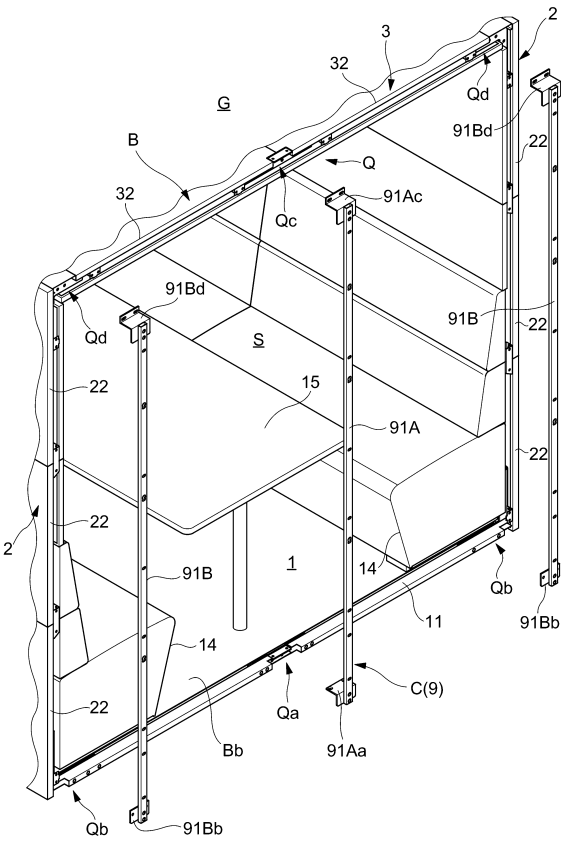
【図２０】



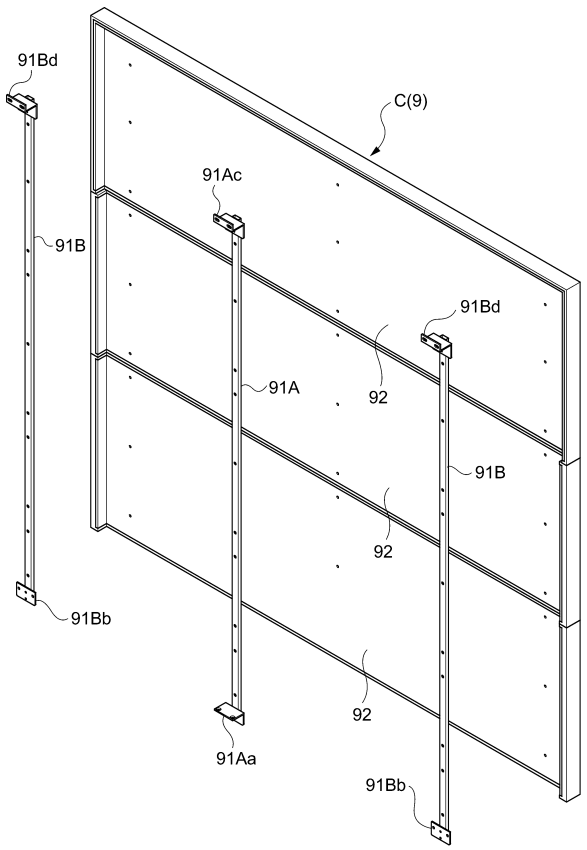
【図２１】



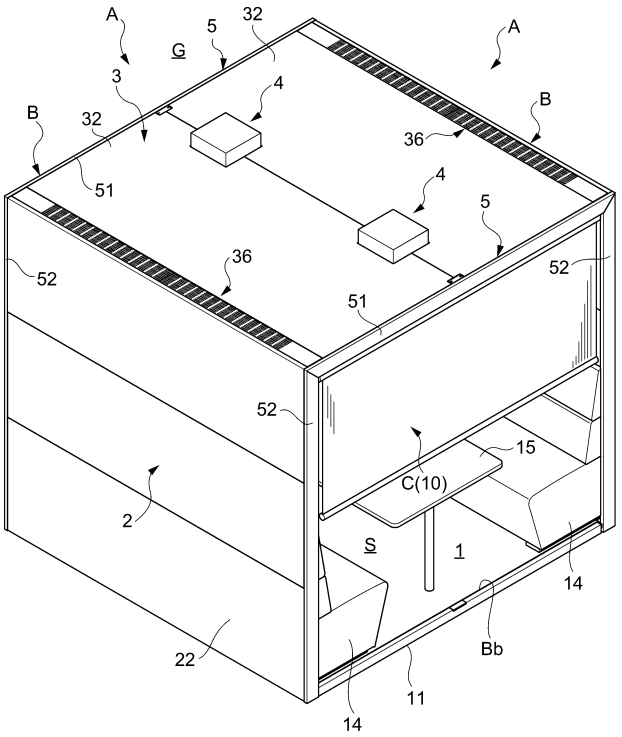
【図２２】



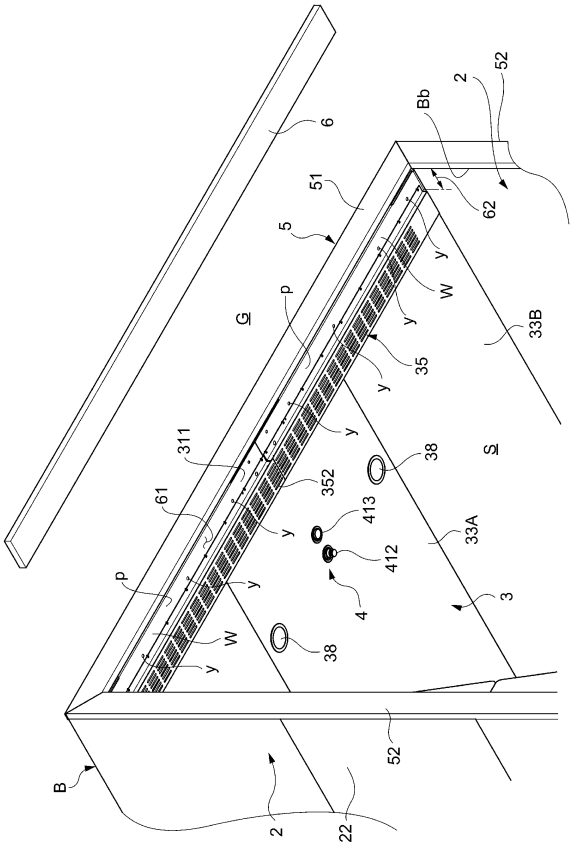
【図２３】



【図２４】



【図２５】



フロントページの続き

(51)国際特許分類	FI			テーマコード（参考）
	E04B	2/74	551	
	E04B	1/70	D	
	E04B	1/82	J	
	E04B	1/82	W	
	E04B	1/94	Y	

(72)発明者　田中 太郎
大阪府大阪市東成区大今里南６丁目１番１号 コクヨ株式会社内
(72)発明者　村上 利造
長野県伊那市西春近下河原５３３１ タカノ株式会社内
(72)発明者　酒井 徹
長野県伊那市西春近下河原５３３１ タカノ株式会社内

Ｆターム（参考）　2E001　DE06 DF02 FA41 GA12 GA53 HB01 HC01 HF13 NA05 NB01
NC01 ND11 ND12